

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 山岳センター高校登山研修会 2

天気が悪く雪訓が中止になってしまい残念だったが、夕食がおいしくつくれたので、よかった。テントの整地の時に相当てこずったので、次回はしっかり整地できるように



したい。2日目の訓練では、去年のことをかなり忘れていたので復習ができてよかった。基本的な技術をしっかり身につけてもっとたくさんの雪山に登れるようにしたい。1日目と対照的な天気で美しい山々が見られたのでよかった。今回の研修会は山の美しさ、厳しさの両方に触れることができた。去年見えていたえん堤もデブリに埋まっていたびっくりした。雪山では常に先を読み、最悪の状況を想定し、行動することが大切だと思った。最近若い登山者が増えてすごく軽装だったり、きちんとした知識ももっていない人が多くいるが、その中でも自分は本物の技術を身につけていきたいと思う。全体的に楽しく技術を学ぶことができてよかったが、峠まであがれなかったのが少し残念だった。(C校)

天候が悪く講習が中止になったものの雪山での過ごし方がおおよそわかったのでよかった。2日目は前日とちがいで、晴れたのでよかった。講習は少し難しい部分もあったものの、技術を理解できたと思う。内容は重要なことなので、登山する際はよく頭に入れておきたい。(D校)

できれば山頂(峠)まで行ってほしい。1日目はあいにくの天気でしたが、山ではそういうこともあるので、それに対する行動の勉強になりました。2日目は訓練をやりましたが、先生に教わり、まねすることでどんどん雪になれていく自分が実感できた。(D校)

天気が悪くなって、訓練が中止になってしまったけれど、大沢小屋まで行くときに、講師の方が歩き方を教えてくれて、そのとおりにできた。雪上訓練を実際に試してみ、自分の命を守るために、真剣に受講できた。(D校)

1日目は雨のため研修はありませんでしたが、雪山での過ごし方が理解できたので、良かったです。雪上での登山には経験がなかったので、とても良い体験ができました。自然の力を見られた。特にデブリがすごかった。(D校)

ご飯がうまくできた。つかれた。あんまり眠れなかった。(A校)

1日目の行きはとても大変でした。メインザックが重かったです。2日目は慣れたし、滑っていらしたので早かったです。朝ご飯も早く作れた。(A校)

天候によって、日程が変更になってしまったが、内容は濃いものでよかったと思う。2日目は天候もよく、さまざまな技術を教わることができ、よかったと思う。(E校)

1日目、あいにくの雨天で残念ながら何もできなかったが、テントの生活を楽しめてよかった。講師の先生方から色々な話が聞けてよかった。2日目は恵まれた晴天で、とても景色がよかった。講師の先生からアイゼンの付け方、歩き方などとても多くのこと

を教わり、覚えきったか不安だが、なんとか楽しく研修を終えることが出来た。(E校)

### **山岳センター高校登山研修会 3 顧問感想**

雪の中でしたが、かえってテント内での生活技術のよい練習になりました。2日目は晴天に恵まれ、生徒も顧問もよい研修ができたと思います。(顧問1)

土曜日をフルに活用できる日程が考えられると良いと思います。金曜夕方授業が終わってから集合というのも一つの方法では？1日目、天候他の関係であんなものでしょう。2日目は良かったと思います。ただ時間設定はもう少し余裕が欲しいです。参加者のほとんどが初心者で初山行のものもかなりいそうなので。高校生の各班の人数、最大5人ぐらいになる様、講師の手配を願いたい。センターの最も古くからある研修会である。顧問の技量の問題もあるので、リーダーコースや一般とは別に設定して欲しいと思います。(顧問2)

天候不順のため、昨年のような2日目針ノ木峠ピストンが不可能で残念でしたが、講師の方々の熱心で丁寧な指導により、新入生たちは多くを学ぶことができました。毎年のことですが、感謝の念で一杯です。(顧問3)

全くの初心者でしたが、丁寧に教えていただき大変参考になりました。初心者にとっては難しい話ばかりでしたが、生徒を引率する際など今後どのように行動すべきか、何が必要か、課題が明らかになり助かりました。(顧問4)

### **県高体連専門委員会、県大会下見**

同じ長野県なのに・・・北と南では全くちがう。方や針ノ木では大雪崩と霰という冬の山での研修会だったが、その4日後の19日に高体連専門部のメンバーと県大会の下見で入った大川入山には雪のゆの字もなく、すでに初夏の装いだった。

県大会のコース通り、もみじ平スキー場を出て、国道を1時間弱、治部坂スキー場から山道にはいった。この国道歩きはやや冗長ではあるが、大会の時間設定等考えるならば、やむを得まい。最初の急坂を登っていると、登山道脇には薄ピンクのイワウチワの花がちょうど盛りであった。最初は名前を知らず、葉を見て、イワカガミの変種かと思ったが、飯田高校の杉山先生にこの山にはイワウチワの群落があるのだと教えてもらい、納得。横岳に登ってからは本当に細かいアップダウンの連続である。読図になれていないチームは苦勞するだろうなあ。などと考えながら最低鞍部からの特区間をちょっと本気で登ってみる。到着した山頂の笹を揺らす風が心地よかった。昨秋も2回登ったが、季節が変わるとまた印象も変わる。今回は、眺望もバッチリであった。

山頂からも何度かアップダウンを繰り返しながら下り、秋の下見の際には藪が濃くてどうしても見つけられなかった1724mの三角点を発見。ちょっと嬉しかった。2週間後、あわせて200名近い役員・顧問・生徒がこの山を訪れる。その時はどんな顔で迎えてくれるのだろうかと思いながら、山をあとにあららぎ高原スキー場まで下った。

### **編集子のひとごと**

県大会の直前の5月29日に予定されている長野県山岳協会50周年記念50山同日一斉登山。加盟の各山岳会が一つの山を担当する。2週間ほど前に信毎で掲載されたたん、事務局には申し込みや問い合わせが殺到したそう。信高山岳会と高体連は、翌週に控えた県大会の下見に入る学校があることを想定して、大川入山を担当した。今のところ、木曾青峰、塩尻志学館、松本県ヶ丘、池田工業などが入ることになっている。正午には50山を繋ぐ携帯電話リレーが計画されている。天候が心配だが、なんとか成功させたいと思う。(大西 記)